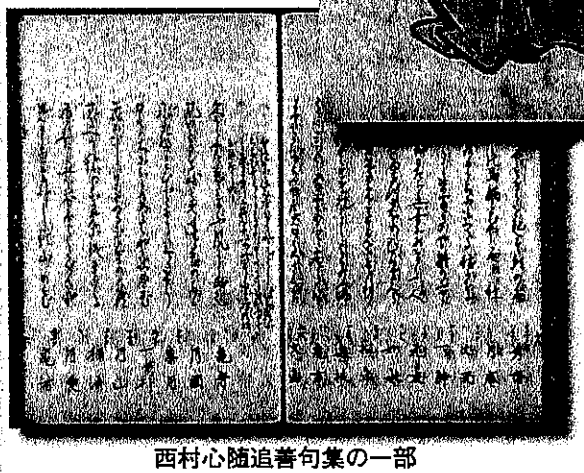
西村心随追善句集『散華集』（御厨）の発表
及び心随句控えにみる事績と作品
講演会

西村心随（本名西村金吾　1770～1851）は、更級郡斗女村（現長野市御厨戸部）出身の俳人。俳号は素十、素時雨、梧雨楼、桐翁。

心随は、宮本虎杖（戸倉村、現千曲市）に師事、虎杖門の高弟となった。文政12（1829）年、60歳のとき、梧雨楼心随と改号した。『散華集』は心随の追善句集である。著書に『梧雨楼心髓句控』などがある。

西村心随肖像画

ちる花を
同行にして
旅うれし
心随



西村心随追善句集の一部

日　時	3月4日（土）午前10時より
場　所	川中島町公民館2階大会議室
内　容	発表　10：10～10：50
	西村心随の追善句集『散華集』の句と俳人たち
	句碑についても
	講　演　11：00～11：50
	講師　二松学舎大学客員教授　矢羽勝幸先生
	演題　「心随句控えにみる事績と作品」
参加費	資料代　1,200円
	駐車場　あり
主　催	川中島町句碑・俳額研究会
後　援	川中島町住民自治協議会・川中島町公民館
問合せ	電話 090-8081-3860 竹村・026-405-5871 住自協事務局

心随の句碑

令和４年度第６回会議　　令和４年 12.15

次第

川中島町句碑・俳額研究会

1　報告

令和４年度第５回の報告

ア『散華集』の解読　「解読委員会」の報告

『散華集』の解読　「俳人調査委員会」の報告

イ　『散華集』の関係施設見学　法蔵寺、素時雨生家、以文生家

11月11日（火）午前10時から 20名参加 資料残あり

2　協議事項

一茶資料　文芸春秋　（平成４年６月号）　和田富雄氏より

ア「解読委員会」の報告

「俳人調査委員会」の報告

矢羽勝幸先生からの監修資料いただく

ウ　『散華集』解読にかかわる資料集の刊行予定

「編集委員会」の設置

① 第１回編集委員会　　目次　別紙

委員　本日の出席者をもって編集委員とする。

委員名

② 印刷について　業者龍鳳書房

諸物価の値上がりにより税込み28万円～ 30万円

冊数100冊～120冊

エ　資料集については２月または３月発表会に資料として配布

資料代 1200円か

参加者以外の人には1500円

エ　その他

3 次回日程

1月10日（火）か11日（水）　午前10時　町公民館

令和４年度第７回会議報告　　令和５年1.25

次第

川中島町句碑・俳額研究会

1　報告

令和４年度第６回の報告

ア『散華集』の解読　「解読委員会」の報告

『散華集』の解読　「俳人調査委員会」の報告

イ 編集委員会」の設置

① 第１回編集委員会　目次　別紙

委員　本日の出席者をもって編集委員とする。

委員名　井上、村田、峰村、本道、窪田、小田切、二本松

山崎、竹村

② 第２回編集員会 目次の確認 資料から 70P～80P

印刷について　業者龍鳳書房

諸物価の値上がりにより税込み 30 万円

冊数 100 冊～120 冊　予算と検討 2 万円ぐらい増

エ　資料集については２月または３月発表会に資料として配布

資料代 1200 円か（本代 1，000 円、講演資料 200 円）

参加者以外の人には 1500 円にて売却

オ　チラシ作成配布　チラシ龍鳳書房、印刷井上、二本松、竹村

2　協議事項

ア 発表会次第　別紙

イ 『散華集』の印刷状況など 印刷完成２月 15 日目標

ウ　発表会までの日程

編集委員会第３回 第４回　日時

エ　その他

3 次回日程

２月 22 日（水）　午前 10 時　町公民館

令和４年度研究発表会　(別紙チラシ参照)

1　日時　3月4日(土)午前10時～12時

2　場　　所　長野市川中島町公民館 大会議室

3　集合場所　川中島町公民館2階大会議室

①川中島町句碑・俳額研究会　集合　　9：20～9：30

準備　受付　会議室設営　　9：30～

4　発表会　全体司会　　10：00

開会挨拶　川中島句碑・俳額研究会代表　　10：01～10：05

来賓挨拶　住民自治協議会御厨区長　　10：05～10：10

5　Ⅰ　研究発表

『西村心随追善句集『散華集』(解読本という）の句と俳人たち

(1)　「『散華集』研究経過と散華集の概略 、俳人たち」

解読本により説明　竹村　　10：10～10：30

(2)　解読本の中から秀句を選び原文と対照しなが説明、

(　　)　　10：30～10：50

休憩　　10：50～11：00

Ⅱ　講演　　司会　　11：00～12：00

講師　二松学舎大学客員教授　　矢羽勝幸先生

演題「心随手控えにみる事績と作品」　　11：00～11：50

謝辞　川中島町句碑・俳額研究会　代表　　11：50～11：55

8　閉会挨拶　川中島句碑・俳額研究会　　11：55～12：00

受付に関して

① 西村静男さん資料代は受け取らない。

② 馬場区長からは資料代をいただく

③ マスコミ関係には新刊本は配布済み　信毎、週刊長野、市民新聞　講演資料は配布。その他のマスコミは適宜

④ 川中島平俳諧研究会の岡田先生からは資料代200円のみ

⑤ 夫婦の場合は本代は1人のみで 講演資料はそれぞれ。

⑥ 川中島平俳諧研究会の金箱地区の宮下さん竹村まで、用事あり。

⑦ 玉城司先生が出席されたら資料代は受け取らない。

表面　『西村心随追善句集『散華集』』出版記念講演会

心随句控にみる
事績と作品

二松学舎大学客員教授
矢羽　勝幸　先生

心随句控にみる事績と作品

矢羽　勝幸

一　心随略歴

長野市（旧更級郡）戸部の人。本名西村金吾。俳諧を千曲市下戸倉の宮本虎杖（加舎白雄高弟。倉田葛三の師）に学んで、初め素十のち素時雨（そしぐれ）、さらに文政七年（一八二四）家督を嗣子に譲って心随と改めた。

家に大きな桐の木があったことから梧雨楼・桐翁また警枕舎と名のっている。

寛政ころ戸部の法蔵寺に同郷の人々と虎杖の句碑

念なくも花にくもれる眼（まなこ）かな

を建立している。

嘉永四年（一八五一）二月四日没。享年八十二。墓は法蔵寺。辞世は

ちる花を同行にして旅うれし

（子孫宅句碑明治十七年建）

追善集に『散華集』（嘉永四年刊。二代素時雨編）がある。

二　自筆句控

大本一冊。七十二丁。紺色表紙。題簽「　草稿　全」（虎杖筆）。序文虎杖（寛政四年）。跋文なし。本書は、寛政二年（一七九〇）から死の前年の嘉永三年（一八五〇）までの作品を集成している。

三　句控の内容

○　寛政三年　二十二歳

郷遠し青田にくるゝ雨の鷺

落ぐりや跡はしづかに夜の雨

○　寛政四年　二十三歳

夕雲雀山家のともし幽（かすか）なり

しばらくは彼岸の人の直(すぐ)なるか

白萩や野守が窓の星月夜

雲の峰崩れてこゝろうごきけり（虎杖点）

○寛政五年　二十四歳

雨の夜の柳に閨(ねや)のもる灯かな

花芥子に我もゆうべはしらぬ也

（改作＝花芥子の我もあしたははかられず）

露淡し野守が門(かど)の竹箒

○寛政六年　二十五歳

ころもかへて何やらしばしものわすれ

別所てふところの安楽禅窟にもふで

山寺や桜木のゆふべなつの月

△冬。『仏土（都）紀行』。虎杖が戸部の門人嶺南・和鳴と長野市の善光寺へ出発、途中素十（心随）・一中・南中が参加、六人で善光寺をめざす。途中常蓮寺に参詣、

犀川を渡り「川」の題で句作。

冬の川水は岩(いわお)に砕けけり　素十

凩や裂てふたつにさし筏　虎杖

裾花川

水上の里を恋れば雪ぐもり　素十

善光寺

法の声時雨るゝは我と他(ママ)かひか　素十

○寛政七年　二十六歳

なくやうづら雨のひとつ家筏(おさ)の音

△冬。岩野正源寺の荷哉坊秋水の七回忌法会に出席。

時雨るゝはこゝろ斗(ばかり)か千ぐさ〳〵(ママ)

○寛政八年　二十七歳

△三月二十八日。友人と姨捨山へ。

更科や明日をかぎりの春の水

△八月十五日。再び姨捨へ。

月に山に秋のまことをしる夜かな

○寛政九年　二十八歳

△秋。姨捨へ。

身ひとつに秋なうらみそ山の月

○　寛政十年　二十九歳

△春。今井の親友其白の父が他界、悼句を詠む。

△春。竹馬の友一軽の父が他界。悼句を詠む。

△春。長谷の庭可の家を訪問、庭の古松「蟠龍松」を詠む。

△九月。俳人佐藤楚六（そりく）が来訪。

楚六　本名佐藤宅右衛門。旧北佐久郡香坂に生まれる。白雄門人。寛政八年二月病妻を捨てゝ行脚俳人に。のち松井田で犯罪を犯し関西へ逃避。明治五年八月四日、京都の清水寺竹林院で他界（兄香山の家の「過去帳」）。

同じ九月、屋代の生蓮寺で住職松唫（円志）と『半夜百詠』を詠む。

家もたぬ我にも匂へけふのきく　　楚六

流れ行（く）かがし見ている夕べかな　同

○寛政十一年　　三十歳

△二月三日。虎杖の母が他界。法名円与頓室智融大姉。夫下問。

諸鳥おのづから囀（な）かで春を泣（く）　素十

△八月。常世田（とこよだ）長翠来信。虎杖と姨捨へ。

信二柳てふ里にて

待宵やふたつ柳のやなぎかげ　　長翠

久米路橋に遊ぶ「略」。

△冬。屋代の生蓮寺に遊ぶ。

うら枯の鐘に夕日の届きけり　　長翠

○寛政十二年　　三十一歳

△三月ころ姨捨に遊ぶ。

△近所の青木某の幼児の筆才を賞めて文を作る。

△夏。

はく牡丹風のいとまをくづれけり　素十

白牡丹ともしのかげにくづれけり　同

月に芥子散るとおぼへて寝たりけり　同

△秋。姨捨に遊ぶ。

つら〳〵石上に坐して月のおもむきを

山の月千曲の末は天の川　同

○享和元年　三十二歳

△千曲市柏王の心学者中村習輔の古稀を祝って文を作る。

習輔　手島堵庵門人。恭安舎。『更級郡・埴科郡人名辭書』ほかに白雄門人と紹介。『おもかげ集』（明和七年刊）から『春秋稿四篇』（天明四年刊）に及ぶ白雄著作から柏王の白雄門人をみると、鳥布と佳夕の二名が判明。出句数

の多い鳥布が習輔と思われる。

習輔の門人録『恭安舎社友記』に「更級郡
戸部村　西村勝五郎」がみえるが別人か（？）。

○享和二年～文政十一年

○文政十一年　五十九歳

六十の春を迎て

後悔の歯がみもならず花の春

○文政十二年～嘉永三年

○天保三年　六十三歳

初ぞらや澄のこりたる天の川　心随

茶の花に男住居のひそかなり　同

晩年になると秀句が減少。

○晩年中風で口が不自由。

病中

吃りた（る）我や霜夜のきりぎりす

まわらざる口にも十夜念仏かな

○嘉永三年　八十一歳

△秋八月。山崎逸東の句帖に序文を与える（絶筆）。
○嘉永四年二月四日病没。享年八十二。

○年次不詳

△吉野山に遊ぶ（天保二年推定）

ちる花にわらじ埋むや芳野山（散華集）

△京都の公家北小路某を姨捨に案内。

さゝ竹の大宮（人）北小路何がしの君にいざなわれ姨山（に）のぼりホ句つかふまつれとあれば、

更科や我もうまれし国の月　（他二句）

△一茶訪問か（口伝）

川中島を行脚して

芭蕉様の臑をかぢって夕涼　一茶

一茶は柏原と江戸への往復、三度虎杖庵に宿泊。虎杖の高弟心随とも面識があったものと思われる。

市民新聞
2023.2/28

川中島で江戸期に活躍の俳諧師

西村心随の研究冊子

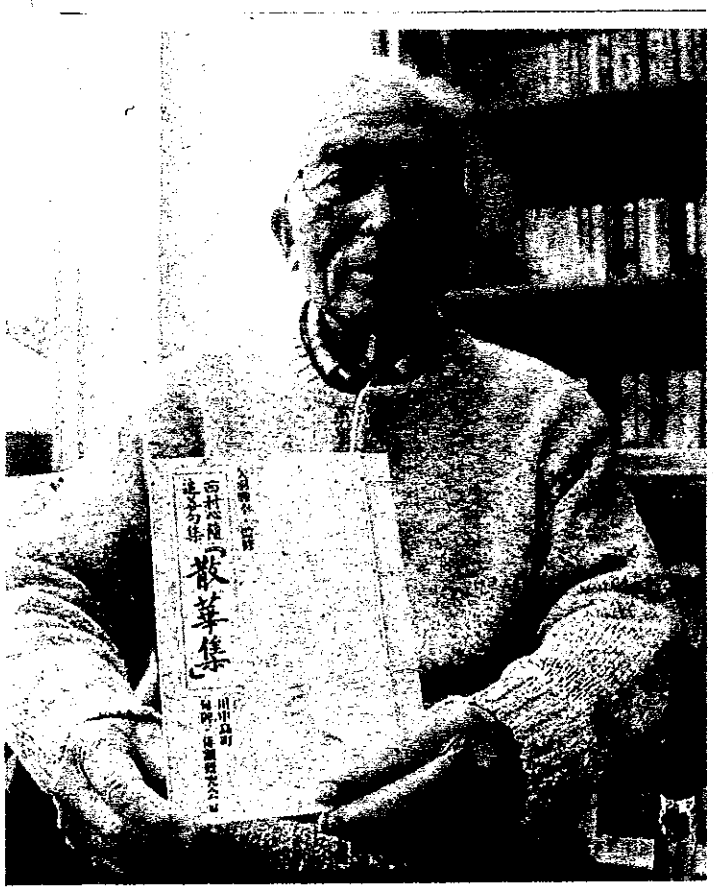
愛好家らへ発刊

川中島地区の俳句愛好家など14人でつくる「川中島句碑・俳額研究会」は3月4日、江戸時代に活躍した地元の俳諧師・西村心随（しんずい、1770～1851年）に関する研究をまとめた冊子を発刊する。同日午前10時から、発刊記念の講演会を川中島町公民館で開く。

心随は現在の川中島町御厨出身。素十（そじゅう）や素時雨（そしぐれ）などの号で活躍し、還暦を迎えて心随とした。地域の人々に俳句を指導し、生家前には「ちる花を同行にして旅うれし」の句碑が残る。

同研究会は、心随の子で俳諧師の二世素時雨や弟子たちが追善句集として発刊した「散華集」を3年かけて解読。収録されている心随の句をはじめ、主に北信の俳人ら約500人・800句ほどについて研究した。

研究冊子では心随のほか、心随の師で俳人の宮本虎杖（こじょう）らの経歴を紹介。追善句集の句も草書体を活字化し、振り仮名や注釈を添えて掲載した。同句集に句が収められている川中島町御厨の戸部集落約50人は心随や虎杖の教え子とみて、「心随は地域の俳諧の隆盛に深い関わりがあった」と考察した。A5判88ページ。価格は1500円。



西村心随の研究冊子をPRする竹村会長

記念講演会は二松学舎大学＝東京＝の矢羽勝幸客員教授が「心随句控えにみる実績と作品」と題して講演する。同会による研究冊子の解説もある。参加費は冊子付き1200円。事前申し込み不要。

同会の竹村昌男会長（89）は「心随は歴史の中で忘れられるには惜しい人物。多くの人に冊子を読んで心随を知ってもらいたい」と話している。問竹村会長（☎090・8081・3860）。

2023.3/1 北信新聞　濃毎
第三種郵便物認可

西村心随の句集を解読

長野市川中島 江戸後期の俳人

「地域に与えた影響の大きさ」代表句や肖像画

住民有志の研究会 冊子にまとめる

4日発表会

長野市川中島地区の住民有志でつくる「川中島町句碑・俳額研究会」は、江戸後期に地元で宗匠（師匠）として活躍した俳人、西村心随（本名・金吾、1770～1851年）の追善句集「散華集」を解読し、冊子にまとめた。心随をはじめ、門人や北信地方の宗匠ら511人の792句を紹介。4日、発表会と、監修した上田市の矢羽勝幸・二松学舎大客員教授(77)＝第25回信毎賞＝の講演会が川中島町公民館で開かれる。

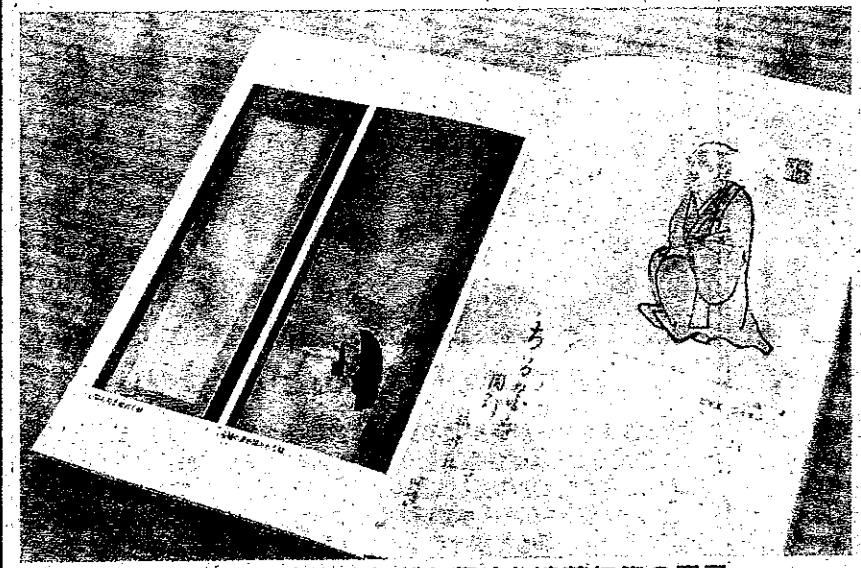
心随は更級郡斗女村（現長野市川中島町御厨）出身で、上田ゆかりの俳人加舎白雄の弟子で戸倉（現千曲市）の宮本虎杖に師事。俳諧の普及に尽力し、1851（嘉永4）年に82歳で亡くなった。

散華集は心随の息子や門弟による追善句集で、県立長野図書館（長野市）が所蔵。研究会は2021年度から心随について調査、分かりやすく読めるよう句集の解読を進めてきた。まとめた冊子には心随の代表句「ちる花を同行にして旅うれし」や肖像画の他、句集に収められた全ての句や登場する他の宗匠たちの経歴を掲載した。

矢羽客員教授によると、善光寺のある長野市には文化人が多く訪れ、特に江戸後期には俳諧が盛んだった。心随について「善光寺平でよく知られた宗匠で、地域に与えた影響の大きさがうかがわれる」と評価。門弟らの作品も優れ、「近代以降の長野県の文化的土壌には江戸後期の庶民俳諧があった」としている。

研究会代表の竹村昌男さん(89)は、1847（弘化4）年の善光寺地震に伴う洪水で川中島一帯が被害に遭ってから数年で散華集が刊行されたことに、「当時の庶民の力強さと文化に対する意識の高さに驚かされる」と話している。

冊子はA5判、88ページ。発表会・講演会は4日午前10時から。冊子と資料代として1200円。問い合わせは竹村さん（☎090・8081・3860）へ。



西村心随の肖像画なども収めた追善句集の冊子

地元の俳諧師・西村心随の冊子発刊

川中島町の研究会 3月4日に講演会

川中島町の研究会は、1815年（1770）の俳諧師・西村心随の句集「散華集」の冊子を発刊し、記念講演会を3月4日（土）に公民館で開催します。

時から川中島町10の研究会代表の竹村昌男さんが「善光寺地震と文化」について、矢羽客員教授が「心随の句と俳諧」という題で話します。

心随は現在の川中島町御厨出身で、戸倉町の俳諧師・宮本虎杖に師事し、江戸・俳諧の普及に尽力しました。

研究会は、心随の句碑や俳額の調査を行っています。

研究会代表の竹村さんは「心随の句集は、地元の俳諧師の作品を知る貴重な資料です。研究成果を講演会で話します。参加者は研究会の会員に参加してもらいたい」と呼び掛けています。

講演会は一般公開で、参加費は1200円。申し込みは不要。

心随の子孫が編集した散華集に、北信地方の宗匠ら511人の792句を収録した。

追善句集として刊行された。

心随の子孫が刊行した散華集。北信地方の宗匠ら511人の792句を収録しています。

問い合わせは竹村さん☎090・8081・3860へ。

2023.2.18 朝日新聞